

大王製紙が日本製紙と海上共同輸送を開始 ～同業社間の協業により、持続可能な社会の構築に貢献～

大王製紙株式会社（住所：東京都千代田区、以下 大王製紙）は、日本製紙株式会社（住所：東京都千代田区、以下 日本製紙）とともに、首都圏・関西エリア間の海上共同輸送を8月2日から開始しました。製紙業界において同業社間の定期的なラウンド輸送は初めての取り組み^{*1}であり、物流業界の2024年問題への対応やCO₂排出量削減など、持続可能な社会の構築に貢献していきます。なお、本取り組みは、国土交通省が募集する令和5年度の物流総合効率化法に基づく総合効率化計画の認定及びモーダルシフト等推進事業の交付^{*2}を受け、実施します。



RORO 船 第五はる丸

- * 1. 大王製紙及び日本製紙調べ。
- * 2. 本取り組みは、大王製紙及び日本製紙のほか、大王製紙のグループ会社であるダイオーロジスティクス株式会社（住所：愛媛県四国中央市）、日本製紙のグループ会社である日本製紙物流株式会社（住所：埼玉県草加市）、南光運輸株式会社（住所：宮城県石巻市）、RORO 船の運行を行う大王海運株式会社（住所：愛媛県四国中央市）の計6社の「紙・パルプ協業モーダルシフト化推進協議会」で実施します。

■ 共同輸送の概要

<大王製紙>

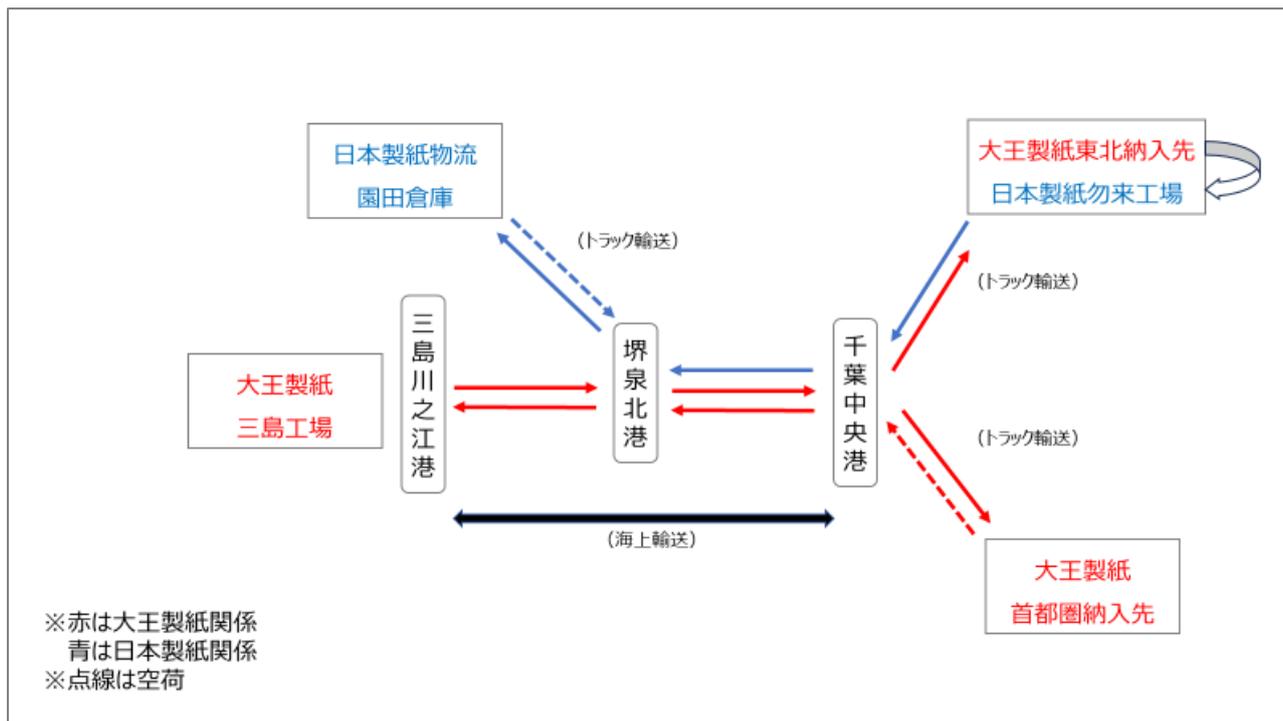
大王製紙は三島工場（住所：愛媛県四国中央市）で生産する紙・板紙製品を三島川之江港から大王海運のRORO 船を活用し（堺泉北港経由・千葉中央港まで輸送）、首都圏や東北地区へ製品を供給しています。ティシューや紙おむつ等のホーム&パーソナルケア商品についても今後、RORO 船の活用を見込んでおり、大王海運と共同で、東日本から西日本向けにRORO 船を活用する新たなパートナーの確保と安定稼働を検討してきました。

<日本製紙>

日本製紙は勿来工場（住所：福島県いわき市）で生産する情報用紙の関西圏への供給に関して、これまでトラックでの長距離輸送を行ってきました。モーダルシフトによるCO₂排出量の削減と、物流2024年問題、特に長距離において今後トラックによる安定的な輸送が困難となることが予想されることから、輸送手段の複線化を検討してきました。

これら両社の課題解決に向け、日本製紙の勿来工場で生産した製品を千葉中央港まではトレーラー輸送にて、同港から堺泉北港（住所：大阪府堺市、高石市、泉大津市）までは大王海運 RORO 船を活用した海上輸送を行います。これにより、日本製紙は従来の輸送と比較しCO₂排出量を年間46.7%、トラックドライバーの総走行時間を78.8%削減します。

<輸送イメージ>



■今後の進め方

大王グループは、物流 2024 年問題・CO₂ 排出量削減などの対応や持続可能な物流体制構築のため、RORO 船活用を含めたモーダルシフト、同業種間・異業種間との共同輸送に取り組んでいます。今後、RORO 船の活用を見込んでいるホーム&パーソナルケア商品について、更なるパレット輸送化を進め、物流効率化や CO₂ 排出量削減に取り組んでまいります。

【本リリースに関する問い合わせ先】

大王製紙株式会社 物流企画部 蛭田・釜石 TEL : 03-6856-7526

※報道機関の方は、下記までお問い合わせください

大王製紙株式会社 総務部広報課 北野、ウーデン TEL : 03- 6856-7501